

第152回エイズ動向委員会  
委員長コメント

《平成30年 第3・第4四半期》

## 【概要】

1. 今回の報告期間は平成30年6月25日～平成30年9月30日（以下A、前年同時期を $\alpha$ とする）  
平成30年10月1日～平成30年12月30日（以下B、前年同時期を $\beta$ とする）の約半年
2. 新規HIV感染者報告数は (A) 259件及び (B) 236件 (( $\alpha$ )245件及び( $\beta$ )241件)
3. 新規AIDS患者報告数は (A) 104件及び (B) 81件 (( $\alpha$ )110件及び( $\beta$ )122件)
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は (A) 363件及び (B) 317件

## 【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
  - 同性間性的接触によるものが (A) 185件及び (B) 182件  
(新規HIV感染者報告数の (A) 約71%及び (B) 約77%)
  - 異性間性的接触によるものが (A) 44件及び (B) 29件  
(新規HIV感染者報告数の (A) 約17%及び (B) 約12%)  
そのうち (A) は男性37件、女性7件 (B) は男性20件、女性9件
  - 静注薬物によるものは (A) 1件、(B) 0件
  - 母子感染によるものは (A) 0件、(B) 1件
  - 年齢別では、20～40代が多い。
2. 新規AIDS患者：
  - 同性間性的接触によるものが (A) 56件及び (B) 43件  
(新規AIDS患者報告数の (A) 約54%及び (B) 約53%)
  - 異性間性的接触によるものが (A) 27件及び (B) 20件  
(新規AIDS患者報告数の (A) 約26%及び (B) 約25%)  
そのうち (A) は男性26件、女性1件 (B) は男性14件、女性6件
  - 静注薬物によるものは (A) 1件及び (B) 0件
  - 母子感染によるものは (A) 、(B) 共に0件
  - 年齢別では、30～40代が多い。

## 【検査・相談件数の概況（平成30年7月～12月）】

1. 保健所におけるHIV抗体検査件数は (A) 22,734件及び (B) 31,001件  
(前年同時期確定値( $\alpha$ )22,906件及び( $\beta$ )25,511件)  
自治体を実施する保健所以外の検査件数は (A) 7,917件及び (B) 9,470件  
(前年同時期確定値( $\alpha$ )7,779件及び( $\beta$ )8,617件)
2. 保健所等における相談件数は (A) 30,990件及び (B) 36,944件  
(前年同時期確定値( $\alpha$ )31,447件及び( $\beta$ )33,069件)

## 【献血の概況（平成30年1月～12月）】

1. 献血件数（速報値）は、4,707,949件（前年同時期4,775,648件）
2. そのうちHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は38件（前年同時期43件）  
10万件当たりの陽性件数（速報値）は、0.807件（前年同時期0.900件）

## 《まとめ》

1. 今回報告された新規H I V感染者報告数を前年同時期と比較すると、第3 四半期は増加し、第4 四半期は減少した。新規A I D S患者報告数については、第3・第4 四半期ともに前年同時期より減少した。
2. これまでと同様の傾向ではあるが、平成30 年下半期の新規H I V感染者は20～40 代、新規A I D S患者は30～40 代で報告数が多かった。10 歳代の新規H I V感染が報告されている一方で、70 歳以上の新規A I D S患者も報告されており、幅広い年齢層の報告がある。
3. 平成30 年第3 四半期の保健所等におけるH I V抗体検査件数は前年同時期とほぼ同数であったが、第4 四半期は増加した。また、相談件数については第3 四半期で前年同時期より減少した一方で、第4 四半期では増加した。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、今後も保健所等の無料・匿名H I V抗体検査及び相談を積極的に利用していただきたい。

## 《平成30年 年間報告（速報値）》

### 【概要】

1. 今回の報告期間は平成30年1月1日～平成30年12月30日までの約1年（四半期ごと速報値の合計）
2. 新規HIV感染者報告数は921件で過去13位
3. 新規AIDS患者報告数は367件で過去14位
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,288件で過去13位

### 【感染経路・年齢等の動向（速報値）】

1. 新規HIV感染者：
  - 同性間性的接触によるものが656件（全HIV感染者報告数の約71%）
  - 異性間性的接触によるものが156件（全HIV感染者報告数の約17%）
  - 静注薬物によるものは1件
  - 母子感染によるものは1件
  - 年齢別では、特に20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
  - 同性間性的接触によるものが202件（全AIDS患者報告数の約55%）
  - 異性間性的接触によるものが84件（全AIDS患者報告数の約23%）
  - 静注薬物によるものは2件
  - 母子感染によるものは0件
  - 年齢別では、特に30～40歳が多い。

### 【検査・相談件数の概況（平成30年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は130,759件で過去10位
2. 保健所等における相談件数（確定値）は127,830件で過去19位

### 《まとめ》

1. 速報値ではあるが、平成30年の新規HIV感染者報告数及び新規AIDS患者報告数は、平成29年より減少しており、2年連続での減少となった。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路は、性的接触によるものが8割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。
3. 献血における10万件当たりの陽性者件数は昨年と比べて減少した。血液製剤によるHIV感染を防ぐため、HIV感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を積極的に利用いただきたい。
4. 新規HIV感染者・AIDS患者報告数に占めるAIDS患者報告数の割合は、約3割のまま推移している。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、引き続き利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。
5. HIV感染症は予防が可能な感染症である。HIVに感染していない者においては、適切な予防策をとること、HIVに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、個人においては早期治療に、社会においては感染の拡大防止に結びつくことから、重要となる。国民の皆様には、性感染症を含め、保健所の無料・匿名での相談や検査の機会を積極的に利用いただきたい。